



光射す空へ

制作のねらい

同和对策審議会答申が出されて50年。その間、国や地方自治体等で様々な取り組みが行われ、同和地区の生活環境は大きく改善されました。しかし、同和地区・被差別部落と呼ばれる地区の出身者や住民に対する差別は形を変えて根強く残っています。また、まだ十分に認識されていない人権課題として、性同一性障害や性的指向における少数派の人々、若年性認知症と診断された人々に対する誤解や偏見もあります。

この映画では、大学生たちの悩みと学びを通して、「正しい知識と理解」「多様性の受容と尊重」の大切さを描いています。登場人物たちとともに、誰もが人権を尊重され自分らしく生きていける社会について考えていただければ幸いです。

学習のポイント

- 若年性認知症とは
- 若年性認知症と診断された人と家族が抱える問題
- 同和問題の歴史的経緯
- 同和問題の現状と課題
- LGBTとは
- LGBTの人たちの生きづらさ
- 多様性を尊重する社会へ

【上映時間】
 ※本編アニメーション 32分
 解説編(若年性認知症) 4分
 解説編(同和問題) 5分
 解説編(LGBT) 5分

■ 企画:北九州市 北九州市教育委員会 北九州市人権問題啓発推進協議会
 ■ 制作:東映株式会社 ■ アニメーション制作協力:プロジェクトチーム サラ
 ■ プロデューサー:中鉢裕幸 ■ 声の出演:木村珠莉/宮田幸希/高田憂希ほか
 ■ 監督:上田真一郎 ■ 脚本:山上梨香 ■ 音楽制作:蟬籠寺スタジオ
 ※このDVDには、指導者用手引き・紹介リーフレットがPDFファイルとして含まれています。

※DVD 70,000円(税抜) [C#7181] 字幕・副音声付き



光射す空を信じて

北九州市人権啓発映画制作に関する検討会議委員長 中島 俊介
(北九州市立大学名誉教授)

人権史の金字塔「水平社宣言(1922)」。「全国に散在する吾が特殊部落民よ団結せよ」に始まり「人の世に熱あれ、人間に光あれ」で結ばれる601文字。差別に苦しめられてきた人々の熱い命の叫びが聞こえてくるようです。この宣言から100年近くたった今、私たちに熱と光はあるのでしょうか。

この映画ではいくつかの人権課題が取り上げられています。中でも、最も根深い人権課題は「同和問題」です。人間の奥深い所に巣食う「差別する心」が残酷で悲惨な形となって現実化した我が国固有の人権問題です。映画の中で結婚差別を体験した時恵さんが言います。「好きな人と結婚もできないのなら死んだ方がいい。でも母はもっと苦しんだ。“ごめんね、ごめんね”って私に泣いて謝るの。何も悪いことをしていないのに」。何も悪いことをしていないのに結婚等の差別は今も無くなりません。平成23年には東京で全国規模の戸籍不正取得事件が起きています。この同和問題に対する無知や忘却、軽視や無関心を断じて許さないという心構えと覚悟ができて初めて、この映画で描かれた若年性認知症や性的少数者に対する差別の問題点の理解と解決への見通しがつくと思われまふ。この作品の登場人物が見せる葛藤や見事な成長はまさにその過程を描いています。

本市地元の北九州市立大学では性同一性障害に配慮して本人の申し出と所定の手続きで学生証、学籍簿、卒業証書も通称名使用が認められています(2016.1.5毎日新聞)。しかしこれは全国の大学において、まだ1パーセントにも満たない実施率なのです。映画で描かれた颯太さんのような人がおかしな人と差別されない社会、自分の望む名前や生き方のスタイルを選べる社会、障害の困難を分かち合える社会を目指したいものです。道は険しくとも私たち一人一人の胸の中に「熱と光」。情熱(passion)と使命(mission)さえあれば必ず人権の「光射す空へ」と前進できると信じたいものです。

あらすじ

大学生の有吉朝陽には、悩みがある。父の和正が若年性認知症と診断されたのだ。和正は会社を休職中。母の典子は明るく振る舞っていたが、朝陽は記憶や理解力を失っていく父に苛立ちを隠せない。何でも話せる幼なじみの颯太だけが心の支えだ。その颯太もまた、生きづらさを感じていた。

朝陽は大学の同級生・優海と共同で「自分がよく知らない人権課題」について調べ、レポートを書くことになった。2人が選んだ課題は、「同和問題」。何の知識もない朝陽はインターネットで同和問題の歴史や現状について調べるが、情報の中には同和地区の人々に対する誹謗や中傷もあり何が真実なのかわからない。朝陽と優海は井上教授に相談。田中時恵という女性を紹介してもらおう。時恵は自宅を訪れた2人に、自分が受けた結婚差別について語る。朝陽は優海とともに噂や偏見に惑わされずに自分自身で正しく知ること、人と向き合うことの大切さを学ぶ。

夜中に和正が家から姿を消した。颯太とともに、公園にいる和正を見つけた朝陽は、そこで認知症になっても失われぬ父の誇りと愛情を知るのだった。和正は、職場の理解を得て仕事に復帰。朝陽と典子は家族として和正に寄り添い、胸を張って生きていく決意をする。

颯太は突然、優海に自分がLGBTのT、トランスジェンダーであることを告白する。これまで打ち明けたのは朝陽だけ。自分の家族にすら言えなかったことだ。優海に告白したのは、「普通」とは少し違う自分のことを他の人に理解してもらうための第一歩だ。優海は戸惑いつつも、颯太という人間をあるがままに受け入れる。そんな優海を見て、朝陽も父のことを打ち明けるのだった。

梅雨が明け、空に光が射す頃。人権課題に関するレポートを提出する朝陽と優海。それを読む井上教授の顔に笑みが浮かんだ。

解説編概要

■若年性認知症

認知症は高齢者の病気と考えられがちですが、若い世代で発症することもあります。65歳未満で発症する認知症を「若年性認知症」といいます。若年性認知症は、早期発見をし、適切な治療を行うことで進行を遅らせることも期待できますし、体力的には社会参加が可能なので、家族をはじめ、職場や地域の理解と支援が大切です。

■同和問題

同和問題はわが国固有の人権問題です。昭和40年に同和对策審議会答申が出され、同和問題の早急な解決こそ国の責務であり同時に国民的課題であることが示されました。しかし、結婚差別や就職差別などの根強い差別は今でも残っています。私たちは、正しい認識を持って、今なお残る同和問題に向き合っていくことが大切です。

■LGBT

性のあり方にはある決まった「普通」があるのではなく、「普通」と思われていることも、いろいろな性のバリエーションの一つです。レズビアン、ゲイ、バイセクシュアル、トランスジェンダーの頭文字をとってLGBTと呼びます。LGBTは性的マイノリティという言葉でも表現される少数派で、「普通じゃない」と排除されたり、からかいの対象にされたりすることがあります。多様性を尊重し、認め合い、一人一人が自分らしく生きられる社会をめざすことが大切です。



ありよし あさひ
有吉 朝陽
大学2年生。
父の若年性認知症発症で不安を抱えてアルバイトに励む。



いしい そうた
石井 颯太
大学生。心と身体の性が一致せず生きづらさを感じている。



とくなが ゆみ
徳永 優海
朝陽と共同で同和問題について学ぶ。



ありよし かずまさ
有吉 和正
若年性認知症と診断を受け、会社を休職。



いのうえ とくたろう
井上 徳太郎
朝陽と優海の通う大学の教授。



たなか ときえ
田中 時恵
同和地区出身。自分が受けた差別を語る。